科目ナンバリング	U-LAS40 20035 SJ26						
授業科目名 <英訳>	心の発達と問題行動の理解 Consideration of Mental Development and Problem Behaviors			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　船曳　康子		
群	健康・スポーツ科目群	分野(分類)	健康・スポーツ科学(発展)	使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	火3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

どうしてあの人はあのようなことをするのだろう、と考えることはないでしょうか。
人の行動の背景を発達的視点、種々の環境との関係から考えていくことで、不思議な行動に対する理解が深まってきます。
身近な人の行動ばかりでなく、日々、様々な事件が報道されます。
非行や犯罪においては、起こった行動（結果）に注目されがちですが、その行動の背景を理解していくことにより、今後の同様の行動を防ぐきっかけが得られるかもしれません。時には、いくら考えても、なかなか理解ができない行動もあるでしょう。
本授業では、基本的な知識を提供した上で、理解に苦しむ行動に対する疑問を持ちより、ゼミ形式でグループディスカッションを行い、さらに教員から、精神医学、行動学、認知発達の各種学問的見解と根拠を解説し、理解を深めていくことを目的としています。
これらを通して、人の行動を理解しながら、トラブルや問題を未然に防ぐ方法を考え、身に着けていくという重要な意義も含まれています。

[到達目標]

この科目の履修により、自己および他者の行動の理解を通して、日々の生活における周囲との関係や他者への配慮に役立てることを目標としています。
さらに、将来、起こりうる事態を予測して前もって対応する、また問題が起こればその解決の糸口を考えるような土台を養います。
また、メンバーとの建設的な意見交換を通して、チーム議論のスキルの向上、そして、発達に伴って変化する行動を理解する素養を養います。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション

第2回～第10回　教員が過去に報道された事件を例示し、その背景について5－8人程度で30分間ほどのグループディスカッションを行い、引き続いて全体討論を行います。全体で6事案ほど扱いますが、論点の多い事案では、事案呈示の次の会で解説します。

その際に、以下のような学問的な事項についても解説をします。
人の発達と行動の基本知識
発達障害（自閉症、ADHD、学習障害）
各種精神疾患（統合失調症、双極性障害、妄想性障害、解離）
パーソナリティの形成、生育環境
パーソナリティ障害の各種行動パターン
いじめ・ハラスメント
非行・犯罪の種類とその背景
犯罪後の対応

心の発達と問題行動の理解(2)へ続く↓↓↓

心の発達と問題行動の理解(2)

犯罪被害

参加学生は建設的な意見交換を行い、教員はファシリテートをしながら、関連する知識や情報の提供や紹介、また助言します。

第11回　小レポート作成

第12回～第14回　授業を通しての意見交換とまとめ
学生側からの問題提起を積極的に募集します。また、特に社会的に話題となっている案件について取り上げることもあります。特に、既成の概念となっていない、新たな事象に対して、考えていけるように支援しています。

第15回　フィードバック

[履修要件]

「健康心理学I」「精神保健福祉概論」を履修済み、または同時履修していることが望ましい。基礎的な知識は「健康心理学I」で、社会制度については「精神保健福祉概論」で解説しています。

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加状況）(60)、授業内容に沿った小レポート1回(40)により評価

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

時事問題について目を通し、問題意識を持つようにしておくと、理解が深まります。

[その他（オフィスアワー等）]

[実務経験のある教員による授業]

①分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

②当該授業科目に関連した実務経験の内容
医師（精神科医・内科医）としての診療従事、行政・地域福祉・学校現場と連携した社会的支援の実務（公認心理師取得）

③実務経験を活かした実践的な授業の内容
教科書やメディア情報からは得られない、精神科医としての実臨床や地域連携における実体験に基づいた解説や見立てを追加します。